

かわらばん

2021年 特別号
ファルマ利用者委員会発

コロナウイルスに対抗するための免疫力を保つには、免疫を落とす要因を知っておくことも大切です。暴飲暴食、睡眠不足、ストレス、過度の運動、冷え、喫煙、加齢などは免疫を下げる要因と言われています。加齢は仕方のないことですが、他の要因については自分で対策を考えて上手くコントロールすることを心がけましょう。

新型コロナウイルスワクチン 追加(3回目)接種

新型コロナウイルスワクチンは、すでに7割を超える国民が2回目の接種を終えています。現在接種が進められているワクチンは、接種しない場合に比べて高い発症予防効果があるという報告がされています。一方で2回目接種後6ヶ月までの追跡調査で感染予防効果や、高齢者における重症化予防効果について、時間の経過とともに低下することがわかってきました。このため、感染拡大防止・重症化予防の観点から初回接種(1回目・2回目)の接種を完了したすべての方に対して、追加接種(3回目)を行うことが望ましいとされています。

【接種が受けられる期間はいつ?】

令和3年12月1日から令和4年9月30日の予定。

※自治体の準備が整い次第、接種券等が送付される予定です。

【接種の対象者は?】

2回目接種を完了した日から、原則8か月以上経過した18歳以上のすべての方。

【特に接種をおすすめする方】

高齢者、基礎疾患を有する方などの「重症化リスクが高い方」。
重症化リスクが高い方の関係者・介助者(介護従事者など)などの「重症化リスクが高い方との接触が多い方」。
医療従事者などの「職業上の理由などによりウイルス暴露リスクが高い方」。

【追加接種に使用するワクチン】

令和3年11月時点ではファイザー社ワクチンのみ。武田/モデルナ社のワクチンについては、追加接種に向けて審査中。

※基本的に初回接種と同じ種類のワクチンを追加接種することを推奨しています。もし違う種類を追加接種しても、同じ種類を接種した場合と副反応は変わらないと報告されています。



【追加接種の副反応 1回目・2回目よりも副反応は重い?】

ファイザー社ワクチンの追加接種における副反応は、初回接種の発現割合と同じくらい。
※有害事象のうちリンパ節症だけは、1回目・2回目接種よりも発現割合が高い傾向ですが、ほとんどの場合で軽症かつ短期間で治まっています。

【1回目・2回目接種が終わっていない場合は?】

3回目接種が受けられる期間は令和4年9月30日までです。この期間内であれば1回目・2回目の接種も受けることが可能です。

・各メーカーにおける2回目接種後の効果の推移

ファイザー社：感染予防効果は全年齢で経時的に低下。接種後6ヶ月では50%前後まで低下。入院予防、重症化予防効果は6ヶ月までは維持されるが、60歳以上では経時的に重症化予防効果が低下する。
モデルナ社：感染予防効果は4か月以降、全年代で経時的に低下。発症予防、入院予防効果は4か月以降でも保たれている。
アストラゼネカ社：感染予防効果は経時的に低下。

・追加接種の効果について研究報告

イスラエルでの研究によるとファイザー社ワクチンの追加接種により中和抗体価の増加が確認され、感染予防のみでなく重症化予防効果も改善すると報告がある。追加接種群は、非追加接種群と比較して発症予防効果は95.6%、入院予防効果は93%、重症化予防効果は92%、死亡予防効果は81%の報告あり(Lancet誌電子版より)。さらに60歳以上で、追加接種群は、非追加接種群と比較して感染例の発生率比が11.3分の1、重症例の発生率比が19.5分の1であったとの報告がある(NEJM誌電子版より)。
※この研究は期間が短いので今後長期的な研究結果が待たれる。

参考『厚生労働省「新型コロナワクチンQ&A」』

ワクチンの追加接種により更なる感染予防や重症化予防効果が期待できますが、「手洗いうがい・マスク着用・密を避ける」といった基本的な感染対策が重要であることには変わりありません。追加接種の有無にかかわらず、引き続き感染対策の継続をよろしくお願いいたします。

《ファルマ弘前薬局 神千穂美》

基本的な感染対策



新型コロナウイルス後遺症

新型コロナウイルス（以下新型コロナ）感染症の影響が長期化するなか、発症後の後遺症が問題となっています。新型コロナによると考えられる後遺症の原因については様々な仮説がありますがまだはっきりとした結論は出ていません。有力な説の一つはウイルス感染により免疫の仕組みが上手く働かなくなり自分の体を攻撃することによって起こるとする説です。後遺症患者のかかなりの割合を占めているのではないかと推測されています。

国立国際医療研究センターが新型コロナの患者を対象に行ったアンケートによると感染者のうち84.4%が軽症者でしたが、そのうち発症から6か月経過した時点で73.7%は無症状、残りの26.3%（およそ4人に1人）には後遺症と考えられる何らかの症状が継続しているという結果が得られました。さらに後遺症があると回答したうちのおよそ10%の人が1年弱経過後もなにかの症状を抱えているということも判明しました。

●後遺症とはどんな症状なのか？

症状には味覚・嗅覚障害、倦怠感、息切れ、咳、脱毛、記憶障害、集中力低下、うつ症状などが挙げられます。さらに症状のうち記憶障害、集中力低下、うつ症状は味覚・嗅覚障害よりも割合が多いとされます。1年経過後も症状が続いている人への調査でもこれらの症状がいずれも0%になっていないことから後遺症の深刻さが伺えます。調査では男女差による違いとして女性の方が脱毛、倦怠感、味覚・嗅覚障害の症状が発現しやすいようです。さらに若年者、やせ型であるほど味覚・嗅覚障害が出現しやすいとされます。味覚・嗅覚障害は生活の質を著しく低下させる恐れがあり長期化の影響は計り知れません。

●ワクチンは後遺症にも効果がある？

ワクチン接種の有無による違いとしてワクチン接種を2回受け2週間経過後に感染が判明するブレイクスルー感染をした人の中でもかなりの確率でコロナ後遺症とみられる症状の報告があります。しかしワクチン非接種者に比べて症状が長引きにくいという報告が海外から出ています（Lancet誌電子版より）。ワクチンが発症予防、重症化予防だけでなく後遺症の発現予防にも影響する可能性が示されました。現在、ワクチンの3回目接種が始まりますが発症だけでなく後遺症の観点からも可能であれば接種することが望ましいと考えられます。

●後遺症への治療、対策

現段階では残念ながら新型コロナによる後遺症への確立した治療法は存在しません。新型コロナ後遺症専門外来を掲げる病院も国内にはありますが対症療法が中心となっています。国、自治体による相談窓口の整備も十分とは言えません。まだまだ新型コロナによる脅威が続くなかで予防、発症時の治療だけでなく後遺症の治療も国や自治体レベルで体制を整えていく必要があります。ワクチン接種は後遺症予防の観点からも重要ですが何より感染しないためにはこれまで行ってきた基本的な感染対策が何よりも大切です。いままで続けてきた対策を今後も継続していきましょう。

新型コロナ相談窓口総務省行政相談センター 「きくみみ青森」

新型コロナウイルス感染症に関して「どこに相談したらいいかわからない」といった、色々な問い合わせや相談を受け付けています。



総務省行政相談センター

きくみみ青森

青森行政監視行政相談センター

〒030-0801 青森市新町2-4-25 青森合同庁舎4階

- ・電話による相談受付
平日8:30～17:15
(上記時間帯以外は留守番電話で対応)
行政相談ダイヤル 0570-090110
- ・インターネット相談受付
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/hyouka/soudan.html
- ・FAXによる相談受付 017-734-3355
- ・来所による相談受付 平日8:30～17:15
《ファルマ弘前薬局 小田切望》



さまざまな
後遺症

あなたの身近にかかりつけ薬局 株式会社ファルマ

| | | | |
|---------------|-----------------|------|-----------------|
| 弘前調剤センター | TEL0172-37-6016 | 藤代薬局 | TEL0172-38-2727 |
| ファルマ浪岡薬局 | TEL0172-62-1288 | 黒石薬局 | TEL0172-53-6226 |
| ファルマ ーツ谷薬局 | TEL0173-39-2277 | | |
| ファルマ弘前薬局 | TEL0172-28-8955 | | |
| 居宅介護支援事業所ファルマ | TEL0172-40-0119 | | |